

風習、言語、がまことに卑しいことはどうしても
まぬかれませぬ、如何となればその多くは無教育
者が多數をしめてゐるからで御座います。(未完)

雑感

在東京盲啞學校 平岩繁治

一 子供母の体内より生れて此の婆娑に出ると同時に即ち赤子時代から命令を奉ぜる習慣を養成する事は最も必要なる事と思ひます。

その若し命令を奉ずる觀念なき時は、子供は自然知らずくの間に我が儘になりまして、後には父母の命令を始め、一切の命令を用ひぬえりになります。その始めには二つの命令は一つ奉じ三つの者は二つとゆへ風にだんだんと命令は皆奉ぜずとも能き者又は奉ぜぬとも父母は用捨してくれるものでであると云ふ觀念増長し、成人するに従ひて追々命令を用ひぬえりになつて遂に學校に行く様になつても、其の漸消へないで學校の命令もあまり用ひずなりて、後には、つまり其の子の不幸且つ父母に對して孝行どころではない、却つて不孝となり善にも捧げにもかゝらぬ様になります、尙ほ成人して後一定の仕事も思ふ様に手につかず、或は社會

の命令及諸規則等も遵奉せぬ様になるのであるから、其の養育の任に當つて居るものは務めて「オキヤー」と生れ出た赤子時代から凡て命令約束等は奉ずるものであるとゆへ念を起さしめて生涯の習慣となる様保護感化訓練上大に注意せねばならぬ事と思ひます。

二 子供には惜まず食物を與へよ。これは無暗に間食させよと云ふのではありません。一定の時に於て與へよといふのであります例へば朝晝晩の三度は勿論であるが天真爛漫活動性に富める子供に三度丈では足らぬ感があります、全体子供と云ふ者は生理上消化上から見ても食を欲するは自然の勢なれば三度の食事の間に於て規則正しく與へる方宜しく思ひます。特に子供が授業後學校から歸へつて來ました時は、父母其の他の人等も其れを待つて居て歸り來たならば直ぐ御膳を出して(サー)御喰へよといふ様にしたが宜しと思ふ、斯くする時は種々な利益があると思ふ(子供から御母さん腹がへりました何か頂戴と催促されない中に與へるのであります)即ちつまらない買喰(菓子餅等)も止むだらう、又みだりに他人の物を慾しがらない様になる即ち慾ぼる心をふせぐことが出來ます。又學校の往復に子供は道草を喰ふて居るが其れも自然に止んで來る、友人の家等に遊びに出かけても一定の時間が來ると歸へつて來る、又は子供の中は慾の深いものであ

る、例へば食物なれば無理に一度に澤山喰へるとか、又は興へられたものを誰にも興へず、慾ばりて貯へておくよゝな事はおゝ見受けるところでありませう、此れ等も別段骨を折らなくてもふせぐことが出来ると思ひます。

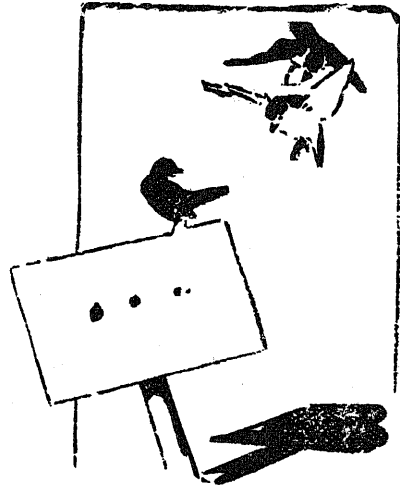
右の如くして充分に喰はせ而して充分に活動させる時は營養自然に完全になつて体格肥へ其の上活潑元氣ある生きくとした状態となりて食欲を忘れて運動もし勉強もする様になつて何となく無心にして理想的の子供の様に見へるだろーと思ひます

尙ほ三度の間に興へるものはなるべく「パン」類が尤も能いと思ひます、是れは私が申すまでもなくお醫者さん等も子供の衛生上一番よいと云ふて居られます

There is no riches above a sound body, and no joy above the joy of the heart.

健全なる身體に勝る富なく心の喜に勝る喜なし

和歌七首



佐々木信綱

無花果の廣葉の上のかたつむり

ところ得顔に角いだしたる

迎へられて昔の友は歸りきぬ

音ながらにわれは掉とる

雪の山天にそびえてさみどりの